

環境宣言

私たちの住む洞爺湖町は、洞爺湖と有珠山そして内浦湾に囲まれ、さらに秀峰羊蹄を望む、緑豊かな大地と景観あふれる町である。

この自然の恵みは、この地域に住む私たちの生きる源であるとともに、広く国民と共有するものであり、次の世代へと引き継ぐべき大切な資源である。

今日、地球の自然環境は変化を余儀なくされている。地球温暖化、オゾン層や森林の破壊、絶滅の危機に瀕する野生生物の増加など地球規模で自然環境が損なわれていることが、後世に大きな影響をあたえることになる。

私たちは、自然と調和し健康で快適な生活を営む権利を有するとともに、この権利を子々孫々に引き渡す義務を負っている。

ここ洞爺湖町にあっても、町民、事業者、自治体が協力しあい、生活や事業活動を見直し、自然保護や環境の保全、節約やリサイクルなどを推進し、環境にやさしい地域づくりをすることが求められている。

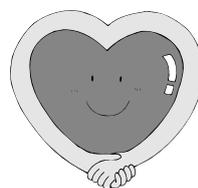
ここに洞爺湖町議会は、自然環境を守り育てる取り組みを積極的に推し進め、健全で持続可能な地域社会を構築することを宣言する。

洞爺湖町議会 環境宣言を 可決

1月16日、町議会臨時会が開かれ、この中で、町民、事業者、自治体の3者が協力して自然環境を守るとうたった「環境宣言」に関する決議案が可決されました。

北海道洞爺湖サミットの主要テーマが、環境問題といわれる中で、サミット開催地として積極的に地球環境を考えていこうと議員提案がなされ、全会一致で可決されました。

篠原功議長の話
「自然環境を維持、存続していくと同時にきれいな環境で迎えようと決議しました。町議会としてもこれからも積極的に取り組んで生きたい。」



雪冷熱活用施設「雪蔵」新設 環境にやさしい農業で差別化

とうや湖農協の成香にある「やさしい集出荷センター」

に建設されていた雪冷熱を利用した「雪蔵」がこのほど完成しました。

西胆振の1市3町とうや湖農協や温泉の各ホテルなどで構成する洞爺湖地域温暖化対策町づくり協議会（会長：長崎良夫洞爺湖町長）が推進する「チーム洞爺湖・マインナス50%事業」の一環で、貯蔵庫と雪氷庫が一体化されて、1、500トンの農産物の貯蔵が可能となり、温室効果ガスを年間155トン削減することができます。

とうや湖農協では、2004年から野菜貯蔵庫に雪を入れ、ジャガイモを保存し、「雪蔵ジャガイモ」として販売。低温による貯蔵で、ジャガイモ自身の保存機能が働き、甘さが増化。人気商品になり、既存の新設が狭くなったところで、環境省の「環境と経済の好循環のまちモデル事業」に申請し、新設が可能となりました。町では、このサミット開催の機会をとらえ、環境にやさしい農業をアピールして差別化を図ることで、今後に期待しています。

とうや湖農協では、2004年から野菜貯蔵庫に雪を入れ、ジャガイモを保存し、「雪蔵ジャガイモ」として販売。低温による貯蔵で、ジャガイモ自身の保存機能が働き、甘さが増化。人気商品になり、既存の新設が狭くなったところで、環境省の「環境と経済の好循環のまちモデル事業」に申請し、新設が可能となりました。町では、このサミット開催の機会をとらえ、環境にやさしい農業をアピールして差別化を図ることで、今後に期待しています。



完成した「雪蔵」